平成 31 年度入ゼミ用

国際総合学類ゼミシラバス集

平成 30 年度入ゼミ用　国際総合学類ゼミシラバス集　総目次

国際学ゼミナール I，II 担当教員一覧　1

国際政治・国際法分野　2

経済学分野　13

文化・社会開発分野　21

情報・環境分野　26

国際学ゼミナール Ⅰ，Ⅱ 担当教員一覧

国際政治・国際法分野	文化・社会開発分野
赤根谷 達雄 岩崎 美紀子 大友 貴史 Charles Edward COVELL Timur DADABAEV Leslie TKACH-KAWASAKI 中村 逸郎 潘 亮 東野 篤子 毛利 亜樹 吉田 脩	井出 里咲子 柴田 政子 関根 久雄 前川 啓治
経済学分野	**情報・環境分野**
柏木 健一 黒川 義教 田中 洋子 内藤 久裕 中野 優子 Abu Girma MOGES Zhengfei YU	奥島 真一郎 亀山 啓輔 蔡 東生 白川 直樹 鈴木 大三 高橋 伸 Simona Mirela VASILACHE 松原 康介 渡邉 真一郎

※各分野内の教員名は五十音順。

＊シラバスが未掲載のゼミの概要等に関しては、担当教員に問い合わせてください。

国際政治・国際法分野

国際関係論ゼミ

筑波大学人文社会系教授　赤根谷 達雄（あかねや　たつお）

1. ゼミナールの概要

・国際関係や日本の政治・外交、安全保障にかかわるトピックを扱っています。これまでゼミ生の多くは、日本の政治・外交・安全保障や、英米、オーストラリア等の英語圏、中国・朝鮮半島に関連するテーマ（安全保障、政治経済、歴史・文化、社会問題）を選んでいます。

・学習の目標は、研究手法を学び、優れた独立論文や卒業論文を執筆することです。
ゼミでは、プレゼンテーションの仕方を学びます。質疑応答や建設的議論を通じて仲間どうし切磋琢磨していくことが求められます。

・習得できるスキル：国際政治学の分析手法を学ぶと同時に、テーマの設定と学術研究の仕方、論文執筆の作法を修得します。

・使用するテキストは、ゼミ参加者の関心を踏まえたうえで決定します。

・単位取得条件や成績評価基準
出席が最も重視されます。（欠席の場合、要連絡）
質疑応答や討論など、ゼミでの活発な貢献が、評価基準となります。

2. 開講曜時限

ゼミの開講学期：春 ABC、秋 ABC　（C 期間は、適宜、集中して行います。）
曜日：火曜、時限： 6 時限~7 時限、教室：3K220

3. 履修要件・入ゼミの方法・選抜スケジュール

・コンタクトの方法：e メールによる（akaneyatt@gmail.com）
・おおよその選抜スケジュール

10 月 5 日-11 月 24 日： 教員訪問期間(要メール連絡)
11 月 3 日-12 月 8 日 ： オープンゼミ(参加自由，詳細は web 参照)
12 月 15 日 ： 教員へのゼミ参加希望表明締切日
12 月 15 日-2 月 1 日 ： 教員による選抜期間
2 月 2 日 ： 選抜結果通知

4. その他

・不明な点は、メールで相談してください。面談にも応じます。

岩崎美紀子ゼミ（比較政治学）

筑波大学人文社会系教授　岩崎　美紀子

1. ゼミナールの概要

The Federalists を題材に発表と議論を行う

2.　開講曜時限

水曜日　15:15～

3. 履修要件・入ゼミの方法

「比較政治学」「カナダ政治」を履修していること

『「知」の方法論』の 3 つのメソッドを理解していること

大友貴史ゼミ（国際関係論）

筑波大学人文社会系准教授　大友　貴史

1. ゼミナールの概要

国際関係論に関する文献を読み、様々な視点から主に国際安全保障に関するテーマについて議論をします。著書や論文の多くはオリジナル（英語）で読みます。発表を通して、みなさんの独立論文、卒業論文作成の準備も行います。

2.　開講曜時限

予定　春AB 水曜 ３・４限　春C集中
　　秋AB 水曜 ３・４限　秋C集中

3. 履修要件・入ゼミの方法・選抜スケジュール

履修要件：「国際政治学(International Politics)」を履修していること。
入ゼミの方法：関心のあるテーマについてメモ（A4 で1枚）の提出。面談。
これらをもとに選抜します。

10月（ゼミ説明会後）～12月19日：ゼミ見学、教員訪問（いずれも事前にメール連絡の上）
2月1日：関心テーマ締切日（ohtomo.takafumi.gf@u.tsukuba.ac.jp までお送り下さい。）
2月15日：結果をメールで通知します

4. その他 （例：連絡先、個人HP・ゼミHPのリンク等）

連絡先：ohtomo.takafumi.gf@u.tsukuba.ac.jp

Seminar in Law and Politics I and II

筑波大学人文社会系准教授 Charles Covell

1. ゼミナールの概要

Overview/Description: The Seminar is intended to provide intensive supervision of students in the preparation of their Graduation Thesis in the general area of law and politics.

2. 開講曜時限

Term/Day/Time/Venue: The Seminar will take place in my office, 3K321, and will be open throughout the academic year and with the dates and times for the supervision of individual students being determined through mutual agreement.

3. 履修要件・入ゼミの方法・選抜スケジュール

Requirements: All students are welcome to attend the Seminar, and there are no conditions laid down in advance for the purposes of their acceptance. Students who wish to attend the Seminar should contact me direct through email so as to make a personal appointment.

Students wishing to attend my Seminar, or who are interested in doing so, are asked to contact me direct through email (charlescovell@yahoo.com) in order to arrange an appointment for a personal interview with me in my office (3K321), at any time during the period running from 14 October 2016 to 26 February 2017. Students will receive formal notification of their selection for the Seminar immediately subsequent to their interview on an individual basis, with the selection being conditional on the mutual agreement of the students concerned and myself as relative to their research interests and their intentions with respect to the Graduation Thesis.

4. その他 （例：連絡先、個人 HP・ゼミ HP のリンク等）

Contact Details: Students should contact me through the following email addresses:
charlescovell@yahoo.com
covell.charles.fp@u.tsukuba.ac.jp

タック　川﨑　ゼミ **Tkach-Kawasaki Seminar 2018-19**
Leslie Tkach-Kawasaki, Associate Professor, Grad. School of Humanities and Social Sciences
Contact information （連絡方法） tkach (at) japan.email.ne.jp (at は＠)

ゼミナールの概要　/ **Introduction**

Subject Specification: Political Communication, Media and Internet Studies, Internet Research Methodology, and Content Analysis. Most students use content analysis (内容分析), surveys, interviews, and similar methodologies.

Objective/Description: The seminar is conducted throughout the year and emphasizes practical research design and methodological approaches

ゼミ **Day/Time:** At present, the seminar is held on Mondays, Period 5. A new day/time for 2019-20 may be chosen in consultation with the students.

Important Points:

1. Readings will be in English and Japanese.
2. You can write your independent thesis (独論) and/or your graduation thesis (卒業論文) in English or Japanese.
3. Seminar discussion will be in English and Japanese.
4. Seminar presentations will be in English and/or Japanese.

ゼミに入る方法： **(1)** Interview with the instructor in October or November (please contact her by email); **(2)** Open attendance at the seminar; **(3)** Decision by instructor (student will be notified).

必要となる予備知識／**Prerequisites:** There are no prerequisites, but students should be prepared to learn how to use basic statistical methods (through Excel or SPSS), bring their notebook computers or smartphones to the ゼミ, and be unafraid of making presentations in front of a small group.

テキスト／**Textbooks and materials:**

Will be assigned according to students' research topics and interests.

単位取得用件・成績評価基準／**Requirements and grading:**

Grading is based on ゼミparticipation (attendance and actual performance/attitude during the seminar).

Past topics of student独論 and 卒業論文

- "Youtube Beauty Gurus" (2011-12)
- "Malaysian Exchange Students in Japan" (2011-12)
- 「橋本徹大阪市長に関する報道の内容分析」 (2012-13)
- "Language and Identity" (2012-13)
- 「情報社会における就職活動」(2013-14)
- 「海外生活におけるアイデンティティの維持と変容―在独日本人と在日ドイツ人の比較」 (2013-14)
- "Branding of Disaster Relief Efforts: A Case Study of the 2011 Japan Earthquake and Tsunami" (2013-14)

Schedule:
Oct. - Nov. Contact the instructor by email for an interview about your research (tkach ("at" mark) japan.email.ne.jp
Nov. - Dec. Open attendance at the seminar.
End of Dec. Deadline for applications by e-mail.
End of Jan. Selection period by the instructor and notification of selection results.

中村逸郎ゼミ（ロシア政治）

筑波大学人文社会系教授　中村　逸郎

1. ゼミナールの概要

ロシア政治、ロシア外交政策、および日ロ関係について考察します。基礎的な文献から段階的に高度な文献（ロシア語の書物を中心）まで読み込んでいきます。その過程でゼミ受講生には自分の研究テーマを発見し、独立論文、卒業論文の執筆に着手していくことを求めます。

2. 開講曜時限

毎週金曜日の４、５時限に開講します。教室は 3K426.

3. 履修要件・入ゼミの方法

ロシア語を履修しておくことを強く望みます。

ゼミ履修を希望する学生には面接を実施します。面接は 12 月 1 日～12 月 8 日のあいだに実施します。面接希望者は、メールで連絡ください。

4. その他　（例：連絡先、個人 HP・ゼミ HP のリンク等）

潘亮ゼミ（日本外交）

筑波大学人文社会系教授　潘　亮

1. ゼミナールの概要

明治以降、今日に至る日本の対外関係の形成過程とその歴史的背景を国際関係史の文脈で議論する。近現代国際社会における日本の位置づけについて独自の理解と発想を養うことを目的とする。具体的な問題関心について、歴史的なものであるという制限を設けないが、昨今の日本の対外関係に関する諸問題を研究する場合、歴史的な背景も意識する広い視野からテーマに取り組む習慣を養成したい。ゼミは外交関係の専門書の講読やフリーディスカッションなどが中心となっている。

2. 開講曜時限

原則的に毎週水曜日 16：45～18：00

3. 履修要件・入ゼミの方法

履修条件：「日本政治」または「現代日本外交史」を履修すること＋日本近現代史と世界史に関する基礎的知識を有すること

入ゼミの方法：　問題関心に関するメモ（A４用紙１枚）を提出し、それに基づいて面接を受ける。

4. その他　（例：連絡先、個人 HP・ゼミ HP のリンク等）

leon@dpipe.tsukuba.ac.jp

5. ゼミ生選抜日程

10月26日～12月10日：教員訪問期間（要メール連絡）

10月26日～1月25日：　ゼミ見学期間（メール連絡の上、参加自由）

2月24日：　ゼミ参加表明締切日

2月24日：　選抜結果通知

東野篤子ゼミ（ヨーロッパ国際政治）

筑波大学人文社会系准教授　東野　篤子

1. ゼミナールの概要

欧州連合（EU）や北大西洋条約機構（NATO）などを中心としたヨーロッパの国際政治を学ぶ。具体的には、1 学期中に国際政治学全般およびヨーロッパの国際政治に関する代表的な文献を読み、レジュメ報告をもとに討論を行う。2 学期以降は各自の問題意識を養いつつ、独立論文および卒業論文作成に向けた準備をすすめていく。

2.　開講曜時限

火曜2限（ほぼ毎週、お昼休みに食い込んで実施していますので、ご承知おきください。ただし担当者の都合により、開講曜時限が変更となることがあります）

3. 履修要件・入ゼミの方法

- 2018 年度 開講の「ヨーロッパの国際政治」および「ヨーロッパ政治」の両方を履修・単位取得済みである人を優先的に採用します。
- ゼミでは ヨーロッパの国際政治、EU 、NATO 関連の文献を大量に読み込む予定です。課された文献をすべて真面目に読み、積極的に討論に参加する意思のある学生の皆さんの参加を歓迎します。読書が苦手な方は、このゼミには向かないでしょう。
- なお、過去にゼミ（春 AB）で扱った文献を以下に挙げておきますので、入ゼミを検討する学生は必ず目 を通し、自分の関心に会う内容かどうか、確認しておいてください。
  - ✧ 小笠原高雪他編『国際関係・安全保障用語辞典』ミネルヴァ書房、2013 年（必携とする）
  - ✧ 中西寛・石田淳・田所昌幸『国際政治学』有斐閣、2013 年
  - ✧ 森井裕一編『ヨーロッパの政治経済・入門』有斐閣、2012 年
  - ✧ マーク・マゾワー『暗黒のヨーロッパ』未来社、2016 年
  - ✧ パトリック・キングズレー『シリア難民　人類に突きつけられた 21 世紀最悪の難問』ダイヤモンド社、2016 年
- 2019 年度 選抜スケジュールは以下の通り。
  - ✧ 10 月-11 月 27 日：オープンゼミ参加希望募集（完全予約制。希望した日時に参加できないこともあります）
  - ✧ 12 月 16 日 ： 教員へのゼミ参加希望表明締切日
  - ✧ 12 月 16 日-1 月 10 日 ：関心のあるヨーロッパ国際関係のテーマにつき、A4 1 枚にまとめた レポートを教員までメール送付。さらに、必要に応じて面談を実施。
  - ✧ 2 月末までに順次合否通知

4. その他

連絡先：　　higashino@dpipe.tsukuba.ac.jp

毛利亜樹ゼミ（中国政治、東アジア国際政治）

筑波大学人文社会系助教　毛利　亜樹

1. ゼミナールの概要

このゼミの目的はアジア国際関係や中国政治への観察眼を鍛えることです。既存の国際秩序は転換期にあるといわれています。この情勢の中で、単なる情報通に終わらず、「何が問題か」「何故そうなのか」「どのような解決があり得るか」に答えようとする学生諸君を歓迎します。

◆春（１）テキスト輪読、書評

目的：著者の分析視点や資料選択を学ぶと共に、分析的読書の訓練をする。

過去のテキスト例

・アーロン・L・フリードバーグ（佐橋亮監訳）『支配への競争』日本評論社、2013年。

・益尾知佐子・青山瑠妙・三船恵美・趙宏偉『中国外交史』東京大学出版会、2017年。

（２）インカレゼミ（全て学生運営）

2018年実績：6/ 12に東大本郷で実施。学習院、慶応、筑波、東大、早稲田、立教が参加。

◆夏休み

合宿または論文作成集中ゼミ。研究構想発表と討論。

◆秋：各ゼミ生の研究報告と討論。

2. 開講曜時限

毎週木曜日10:10-11:40、「春AB」、「秋AB」＋合宿or集中ゼミ＋インカレゼミ

3. 履修要件・入ゼミの方法

・秋学期のゼミではいつでも見学を受け入れます。事前に教員にメールで申出てください。

毛利亜樹aki-mouri.fu[*]u.tsukuba.ac.jp [*]を@に変えてください。

・中国語の習得は必須ではありませんが、読めると出来ることが増えます。

・入ゼミ希望の締切：年内、メールにて受け付けます。

特に選抜は行いませんが、年内で締め切ります。希望メールに教員から返信をします。

4. その他

・毛利担当の「東アジア国際関係史」「現代中国研究」に加え、国際政治にかかわる他の講義を併せて履修し、自分の関心領域を明確にすること。

・ゼミ生になる方には、教員との連絡用にML、ゼミ生同士の連絡用にLINE（教員は不参加）に登録していただきます。MLでは研究に関わる情報提供や事務連絡を行なっています。

国際法ゼミ

筑波大学人文社会系教授　吉田　脩

２０１９年度国際法ゼミの募集予定について

人文社会系　吉田　脩（国際総合学類）

本ゼミは国際法全般について幅広く学ぶことを目的としています。また、原則として、3年次の履修者には、併せて「独立論文」も執筆していただくこととなります。

春AB学期には、国際法学の基礎のみならず、国際関係学や法学のアプローチについて、理解を深めます。秋AB学期には、ゼミ生による発表・報告を中心に展開する予定です。

１．対象者

国際総合学類3年次生（2019年度時点）又は同2年次の早期卒業予定者に限る。

２．応募の要件

「国際法概論」の既修者

３．応募期間と履修の可否

①まず、以下の日程のうち、一度はゼミを聴講してみること（授業と重複する場合は相談）。
3K220号室において、１５：１５～１７：００くらいまで。
聴講希望者は、吉田に事前に連絡すること。

□10月18日（木）　川村君発表：「いわゆる『軍法会議』について」
戦時中における我が国の「軍法会議」について調べ、報告を行う。捕虜の取扱い等、戦時国際法との接点も取り上げること。
資料：北博昭『軍律法廷』（朝日新聞社、1997年）；北博昭/NHKスペシャル取材班『戦場の軍法会議』（新潮文庫、2013年）；北博昭編『陸軍軍法会議判例類集』［復刻］, 第1冊, 第2冊. 不二出版, 2015-2016（十五年戦争極秘資料集:補巻46)【中央図書館所蔵】ほか。国連PKO活動に参加する自衛隊員による違法行為につきいかに対応するかという視点も含めて発表。

□10月25日（木）　草山君発表：「労働CRSと国際法」
資料：Justine Nolan, ‘Refining the Rules of the Game: The Corporate Responsibility to Respect Human Rights’, *Utrecht Journal of International and European Law*, Vol. 7 (2014) など。

□11月8日（木）　由衛君発表：「国際法における方法論」
資料：Anne Peters, ‘There Is Nothing More Practical than a Good Theory: An Overview of Contemporary Approaches to International Law’, *German Yearbook of International Law*, Vol. 44 (2001)【図書館所蔵】ほか。

□11月15日（木）　反町君発表：「国連海洋法条約の展開」
資料：Alan Boyle, ‘Further Development of the Law of the Sea Convention: Mechanisms for Change’, *ICLQ*, Vol. 54 (2008)など。

②国際法ゼミの履修を希望する場合は、ゼミの聴講後、11月19日（月）までに、吉田にメールで連絡をしてください。

③その後、11月末～12月中旬までに、面談を行います。

経済学分野

柏木ゼミ（中東・北アフリカ経済研究）

筑波大学人文社会系准教授　柏木　健一

1. ゼミナールの概要

本ゼミは，発展途上地域の社会・経済に興味のある学生を対象とする。また，研究のアプローチとしては開発経済学の枠組による経済分析を中心とする。発展途上国の中でも特に、中東・北アフリカ諸国の経済発展，構造変化，社会変容，制度変化などを分析することで，同地域の経済発展・安定のメカニズムを検証する作業を進めたいと考えているが，参加者の問題意識，関心等に沿った幅広いゼミを展開したい。本ゼミでは，具体的には，①開発経済学や中東・北アフリカの経済に関する書籍，論文等を読み，討論，意見交換等を行うこと，②独立論文・卒業論文の中間報告，議論等を行うことを通じて，学生自身が中東・北アフリカの経済研究に関する問題を設定し，解決の具体的提案ができる能力を養うことを目指す。

2. 開講曜時限

（１）春ABおよび秋AB：火曜3-4時限
（２）春Cおよび秋C：集中（火曜3-4時限に実施）

3. 履修要件・入ゼミの方法

（１）必要となる予備知識：「北アフリカの経済と社会」を履修していることが望ましい。また，数量的分析ができるこが望ましい。参考書等を自分で読んで自主学習を進めるなど意欲的に学習をすすめる学生を大いに歓迎する。
（２）参加要件：特に定めない。ゼミ参加を希望する場合，2019年2月1日（金）までに，①から③を含めて，A4×1枚にまとめて，emailで提出すること。
①独論で取り組む研究に関する問題意識とその概要
②3年次以降に長期の休学・留学予定の有無
③3年次までに履修した（している）経済系の科目名

4. その他

（１）実施形式：書籍・論文等のレビュー，独立論文・卒業論文の進捗状況報告等
（２）出席：ゼミは原則として毎回出席とし，議論への積極的な参加を期待する。
（３）単位取得用件・成績評価基準：出席と発表によるゼミへの参画度によって評価する。
（４）テキスト：主な参考書として以下の文献をあげる。その他，適宜紹介する。

Cammett, M., I. Diwan, A. Richards and J. Waterbury (2015), *A Political Economy of the Middle East*, fourth edition, Westview Press.

Wilson, R. (2013), *Economic Development in the Middle East*, Second edition, Routledge.

Todaro, M.P. and S. Smith (2011), *Economic Development*, Eleventh edition, Addison Wesley.

（５）連絡先：kashiwagi.kenichi.fn@u.tsukuba.ac.jp 内線：3982, 7424
（６）関連URL：http://www.trios.tsukuba.ac.jp/researcher/0000000278
http://arenatsukuba.wordpress.com/

黒川義教ゼミ（国際経済学・経済理論）

筑波大学人文社会系准教授　黒川　義教

1. ゼミナールの概要

私の主な研究分野は国際貿易論、産業組織論、マクロ経済学、日本経済論である。現在は特に、（1）参入緩和と所得分布、（2）ジョブローテーション、（3）要素集約度の逆転、（4）競争政策・国際貿易・賃金格差、（5）貿易自由化・為替レート・輸出企業に関する理論的・定量的・実証的分析に焦点を当てている。当ゼミでは、国際貿易論を中心に、ミクロ経済学、マクロ経済学なども学ぶことができる。

① 本ゼミ（3・4年生合同、木曜1・2時限（仮））

＜形式＞

私の指導の下、レポーター形式の輪読・討論

＜内容＞

3・4年生合同で国際貿易の基礎理論やその応用に関するテキスト・文献を輪読し討論を行う。4年生の卒業論文報告も行う。

＜テキスト（2019年度）＞

Feenstra, Robert C. and Alan M. Taylor. 2014. *International Trade 3rd Edition (Paperback)*. Worth Publishers.

② サブゼミ（3年生）

＜形式＞

学生だけで集まり、レポーター形式の輪読・討論

＜内容＞

ミクロ経済学・マクロ経済学の基礎理論を学ぶ。ゼミ指定講義も履修してもらう。

＜テキスト（2019年度）＞

神取道宏、『ミクロ経済学の力』、日本評論社、2014年

吉川洋、『マクロ経済学（第4版）』、岩波書店、2017年

③ インゼミ論文・独立論文（3年生）

統一テーマの下、国別・地域別・時代別等で分担して、インゼミ論文・独立論文を書いてもらう。夏合宿や他大学とのインゼミ等で報告してもらう。

④ 合宿　（3・4年生合同）

夏休みに本ゼミ合宿が行われる。

2. 入ゼミ試験

★ 出願資格　「国際経済論」、「初級ミクロ経済学」、「マクロ経済学概論」を履修済みまたは履修中の者

★ 筆記試験（範囲は上記3科目で、英語で出題・解答）と面接（日本語）を2019年1月21日（月）に行う。

★ 出願締め切りは2018年12月24日（月）とする。出願希望者は大学の公式メールで私にコンタクトすること。折り返し出願票を送ります。

3. 2018年度ゼミHP（ゼミ生が管理）

https://sites.google.com/site/kurokawaseminar2018/

田中洋子ゼミ（グローバル経済研究）

筑波大学人文社会系教授　田中　洋子

1. ゼミナールの概要

田中ゼミは、グローバル経済の進展によって社会や世界がどのように変容してきたかという問題を、歴史的・国際的な視点から学ぶゼミです。工業化や経済発展に伴って生じる社会経済システムの構造転換、生活や価値観の変化に関わるテーマを毎年定め、堀り下げて学んでいきます。

2017年度のゼミでは, 機械化・自動化・デジタル化・ロボット化と雇用をテーマとし、アダム・スミス、カール・マルクス、Ｊ・M・ケインズ、ブレーヴァーマンなどの古典文献を読みつつ、それをビール産業という具体的なテーマに落とし込んで学習を進めました。巨大なビール工場での大量生産の様子を三大ビールメーカーすべてで見学するとともに、各地のクラフト・ビール製造販売現場を訪問してきました。11月の学園祭でも、つくラボ企画として出展するなど、非常に活発な活動を行っています。

ただし2017年の夏から、一年間アメリカのハーバード大学に長期出張しているため、2018年度の春学期については2017年度のゼミ生だけを中心にリモート・ゼミで行う予定です。直接顔を合わせてのゼミは秋学期以降となります。（それでもなおゼミに参加したいという人がいる場合はメールで相談してください）

2. 開講曜時限

春AB　水1･2（ボストンと結んでのリモート・ゼミ）、秋AB　水5･6＋α、秋C集中

3. 履修要件・入ゼミの方法

・ゼミの内容を理解した上で、ゼミ活動全体に積極的・主体的に取り組みたい人を歓迎します。（すでに田中の授業をとっている人が望ましい）

・入ゼミ希望者はメールで連絡をとってください。

4. その他

・連絡先　tanaka.yoko.ft [at]u.tsukuba.ac.jp

・ゼミのホームページ http://soziale.mond.jp/tanakasemi/

・ゼミのfacebook https://www.facebook.com/pages/筑波大学-田中洋子ゼミ/

内藤久裕ゼミ（公共経済学）

筑波大学人文社会系准教授　内藤　久裕

1. ゼミナールの概要

このゼミの目標は、マクロ経済学、ミクロ経済学、計量分析を総合的に学び、経済をバランスの取れた目で見る力を養うこと、ゼミでの学生間でのコミュニケーションを通して、対象に対する理解を深める術を学ぶことです。私は、現在、マクロ・ミクロ・計量分析の手法を使って、途上国の人的資本蓄積、乳幼児死亡率の決定要因、HIV の人的資本への影響、医療、先進国での貯蓄、労働市場、教育、企業投資などを分析することに関心があります。ゼミでこのようなトピックを学習し、これらのトピックに関して卒論・独論を書きたい人にこのゼミは向いているでしょう。

私のゼミの特徴は、学生間の学びを非常に重視していることです。ゼミでは、サブゼミ、メインゼミを通して、ゼミの同級生と統計学、計量経済学、応用経済学を深く学びあえるような環境を作っていきます。3 人よれば文殊の知恵と言いますが、最初は分からなくても、学生間で話し合っているうちに理解が深まることが多くあります。皆が分からないときにどのように進めるか、そのようなスキルは社会に出てからも非常に重要と考えています。

ゼミでは、2 年生の 12 月から統計学・計量経済学のサブゼミを行います。サブゼミでは学生を中心に月曜日 2 時間目に集まって勉強してもらいます。ときどき私も参加したり、宿題を出したりします。

本ゼミは、３年の４月から、水曜日のお昼３時間目・４時間目を用いて行います。初めはマクロの経済成長の本を輪読し、経済発展のメカニズムを理解したあと、応用経済学の面白い論文を読んでゆきます。（途上国の教育の経済発展への因果関係の分析、先進国における国際貿易が賃金格差にあたえる影響の分析、食糧援助が紛争にあたえる影響の分析、人口増加と経済成長の関係の分析など）これらの論文は、非常に論争を呼んだ論文です。また、それ以外にも労働市場、人的資本蓄積のメカニズムを分析した個別の論文を輪読してゆきます。この間も、月曜２時間目の計量経済学のサブゼミは、夏休みまで続けます。

サブゼミは必修なので、12 月から月曜２時間目にサブゼミに出席できない人は応募しないでください。

2.　開講曜時限

本ゼミ：水曜昼休みと３時間目（週によっては、３時間目と４時間目）

サブゼミ：月曜２時間目　　（統計学・計量経済学の学習をおこないます。）

3. 履修要件・入ゼミの方法・選抜スケジュール

マクロ経済学を履修していることが非常に望ましいです。

ゼミの学生の多様性を確保するために成績だけでは選抜しません。

明るさ、やる気を重視します。詳しい応募要項はゼミのホームページを参照してください。

11 月 5 日応募書類提出締め切り

12 月 6 日面接

4. その他　（例：連絡先、個人 HP・ゼミ HP のリンク等）

応募に当たっては、以下の HP を見て、志望書を作成すること

http://www.dpipe.tsukuba.ac.jp/~naito/teaching_web/seminar/seminar_annoucement2016.htm

中野優子ゼミ　（開発経済学）木曜4－5限

筑波大学人文社会系准教授　中野優子

私は、途上国の人たちがどうすれば貧困から脱け出せるかを考える開発経済学という分野を専門にしています。主にサブサハラ・アフリカの農業を対象としたミクロ実証分析が専門です。（詳細は下記学類HPの教員紹介記事を参照。）ゼミでは、サブサハラ・アフリカに限らず、途上国の開発問題、日本の社会問題を経済学に基づいて分析します。
http://www.kokusai.tsukuba.ac.jp/kyouin/01_04.html

活動内容

1）　開発経済学のテキストのレポーター形式の輪読および討論　（春学期）

例：Hayami, Y. and Y. Godo.2005. *Development Economics: From the Poverty to the Wealth of Nations.* Oxford University Press.

Benerjee, A.V. and Esther Duflo. 2011. *Poor Economics.* Public Affairs.

2）独立論文および卒業論文の報告と指導　（秋学期）

3）夏季集中ゼミ（1日）

入ゼミ条件

- 「開発途上国における諸問題」を履修済み、あるいは入ゼミ後に必ず履修すること。
- ゼミは木曜 4-5 限に 3K126 で行っています。ゼミ見学は、10 月 18 日（5 限）、11 月 1 日（4－5 限）、11 月 8 日（4 限）、12 月 6 日（4－5 限）、12 月 13 日（4 限）に受け入れる予定です。
- 主ゼミ生としての受け入れは 5 名程度の予定です。希望者多数の場合は、レポート、面接、成績、および担当教員の専門分野との適合性に基づいて選考を行います。
- サブゼミ生としての受け入れも行います。サブゼミ生はゼミに参加し、論文についてもゼミ発表での口頭での指導は行いますが、論文執筆の指導は行いません。
- 入ゼミ希望者は、志望動機と発展途上国の開発（または自分の卒業論文のトピック）に関するレポートを 2018 年 1 月 7 日までにメール nakano.yuko.fn[at]u.tsukuba.ac.jp [at を@に置き換え]までに提出して下さい。追って、面接日時を連絡します。その際に成績表を持参して下さい。
- ゼミには毎週参加することと、入ゼミ前後に「開発途上国における諸問題」、「計量経済学」およびその他の関連授業を積極的に履修し、経済学的な考え方を身に着けることを入ゼミの条件とします。途上国の開発問題に興味のある、意欲ある学生の参加を歓迎します。
- ゼミ生が管理運営しているゼミサイトは http://nakanoyuko.com/ です。
- ゼミサイトに掲載されているゼミシラバスは昨年のものなので、注意して下さい。

➢

MOGES Seminar in Development Economics & Policies

MOGES Abu Girma

Course Description: This seminar explores the issues of economic growth, income distribution, economic policy, income inequality, poverty, social wellbeing and vulnerability from an interrelated perspective. Emphasis will be made on specific topics on the basis of research topics of students. The process and challenges of economic development are discussed with historical and contemporary contexts. Students will have opportunities to examine the different and competing theories of economic development and their economic policy recommendations to address pressing economic, social and political problems in developing countries.

Objective: The main objective of the seminar is to equip students with the analytical skill and research methods in development economics and policy issues. The seminar discusses theories, policies, and country experiences to understand major issues in development economics and policy.

Approach: This seminar emphasizes on participatory approach of students in which selected economic development issue in developing and developed countries are discussed. The seminar involves extensive reading and discussion so as to expose students to diverse ideas and methodologies. It also helps students prepare themselves to conduct research on issues of their choice.

Contact Information and Seminar Room: Please contact the teacher by e-mail to express interest to join the seminar. Screening, interview and decision follow afterwards.

E-mail: agmoges@gmail.com
Venue: Seminar Room A207 Social Science Office Building
Time: Tuesdays 18:30 ~ 20:00pm

Seminar Recruitment for 2018-19:

If you are interested to join the seminar, please contact me by e-mail at agmoges@gmail.com. The deadline for expression of interest is December 15, 2018. Decision for acceptance will be announced by early February, 2019.

Zhengfei Yu Seminar (Selected Topics in Program Evaluation)

Zhengfei Yu, Assistant Professor, Faculty of Humanities and Social Sciences

1. Introduction

Program evaluation is about discovering and measuring the causal effects of programs or policy interventions. This course is intended to equip 3rd-year students with popular strategies and approaches in empirical researches using cross sectional or panel data. Main topics include: elements in causal inference, randomized controlled trials (RTC), permutation test, differences-in-differences (DID), the sample selection model, instrumental variables (revisited from a perspective deeper than that in BC12061), propensity scores, regression discontinuity (RD) designs and distributional/quantile treatment effects.

A reading list will be provided by the instructor at the beginning of the course. There is no required textbook.

Participating students are expected to present the papers from the reading list. The instructor will give lectures when necessary. Grades are based on attendance (20%), presentation (30%) and a term paper or assigned projects (50%). Students can choose either a term paper or assigned projects. Assigned projects are based on datasets used by published papers. Students are asked to replicate the main results of these papers and answer related questions.

2. Semester, period and venue

Semester: Spring and Fall

Time: Thursday, period 4

Venue: 3K326

3. Prerequisites, how to apply and selection schedule

Prerequisites: Statistics (BC12031 or equivalence) and Econometrics (BC12061 or equivalence)

Selection schedule:

Oct. 20 -- Dec. 10 Contact the instructor by email and arrange an appointment.

Dec.15 -- Deadline for applications by e-mail.

Dec.16 -- Feb. 1 Selection period by the instructor.

Feb. 2 Notification of selection results

4. Additional information

E-mail: yu.zhengfei.gn@u.tsukuba.ac.jp

Office: Jinsha A305

文化・社会開発分野

ことばと文化ゼミ（井出里咲子）

筑波大学人文社会系准教授　井出 里咲子

1. ゼミナールの概要

ことばと文化ゼミでは、学問としての言語人類学・社会言語学の理論と方法論を学びながら、ことばやコミュニケーションを切り口として異文化理解、そして現代社会の問題を考える手法を学びます。例えば、我々が普段何気なく行っている会話やメールのやり取りにみられる人間関係の構築方法や、言語教育、メディアの言説に反映される偏見といったテーマまで、ことばを介して実践しているもの全てが研究対象となります。一方、国際総合学類には当該分野のカリキュラムとしての積み重ねがないので、このゼミでは独学でさまざまな手法を学ぶ覚悟が求められます。

ゼミでは春・秋学期を通して、各自の論文のテーマの選定、フィールド調査やデータ分析の実施、論文の執筆を行いますが、その他に専門知識や方法論を学ぶための文献購読と発表も随時行います。不定期ながらゼミプロジェクトを実施することもあります。過去には「ギャル系雑誌のテクスト分析」、「出会いの挨拶のフィールドワーク」、「震災体験の語りの収集」、「つくば市HPの＜やさしい日本語化＞への提言作成」、「人狼ゲームのビデオ録画と分析」を行いました。過去のゼミ生の卒論テーマには「日本社会におけるカタカナ語の意味機能」、「現代中国における普通話制定の過程」、「新聞報道が語る福島原発事故」、「タイ社会の名付けとあだ名」などがあります。

言語文化への関心と問い、また／もしくは、具体的な研究テーマが当ゼミと合致しているかが選考のポイントとなります。尚、ゼミ生は、3，4年次の間に「言語人類学」（井出）及び人文学類の高木智世先生のクラスを履修するように努めてください。その他、日日学類の社会言語学系の授業などの履修を推奨しています。

2. 開講曜時限

(1)　「春 AB」＋「秋 AB」＋集中「春 C」（夏合宿）＋集中「秋 C」（個別面談指導）

(2)　「春 AB」「秋 AB」は、火曜３・４時限に、中央図書館のセミナー室で開催します。

3. 履修要件・入ゼミの方法

(1)　ゼミ説明会～12 月 11 日(火)：メール（ide.risako.gm@u.tsukuba.ac.jp）に連絡、同期間中にゼミを体験しにきてください(授業が重なる場合は井出に面談のアポを取ってください)。

(2)　１2 月 17 日締め切り：入ゼミ希望者は、①自己紹介と参加の動機、②二年間をかけて取り組みたい研究テーマとを A4 二枚以内に記したレポートを井出宛て送ってください。1 月末までに 5 名以内のゼミ生を選抜し、メールで連絡をします。

(3)　新ゼミ生には１月末もしくは２月初旬に開催の「ことばと文化ゼミ卒論・独論公開発表会」に参加してください。

4. その他

直接話を聞きたい人は、火曜日5時限目のオフィスアワーにどうぞ。
人社棟B501の井出研究室に来て、アポ取り表にサインアップしてください。

柴田政子ゼミ（比較国際教育）

筑波大学人文社会系准教授　柴田 政子

1. ゼミナールの概要

教育の諸問題について、国際的比較の視点をもとに学際的に考察する。
従って、テーマは学校教育・公教育に限らず、教育を広義に解釈し、人の育成や学びに関する社会の諸側面を視野に入れる。
ゼミは、論文進捗状況など各構成員の研究発表をもとにディスカッション形式で行う。

2.　開講曜時限

木曜日　3 時限
「春 AB」＋「春 C」集中＋「秋 AB」＋「秋 C」集中

3. 履修要件・入ゼミの方法・選抜スケジュール

上記の通り、ディスカッションが主な活動であるので、相互に議論を深めあえるよう積極的な参加を重視する。
履修しておくべき科目等の要件はないが、少なくとも 1 回は体験ゼミが必要。
体験ゼミが可能な期間は、ゼミ説明会終了～翌年 1 月末。
希望者は、A4 紙 1 枚に、

(ア)氏名、学生番号
(イ)体験希望日
(ウ)入ゼミ後の研究予定テーマ（仮題）
(エ)研究予定内容の概要（300 字程度）

をまとめ、下記メールに添付して送り、事前に連絡を取る。

4. その他　（例：連絡先、個人 HP・ゼミ HP のリンク等）

shibata.masako.ga@u.tsukuba.ac.jp

文化人類学／「開発と文化」論ゼミ（関根ゼミ）

筑波大学人文社会系教授　関根 久雄

1. ゼミナールの概要

文化人類学／「開発と文化」論ゼミ（関根ゼミ）は次の２つのテーマのいずれかに関心をもつ学生を募集します。

① いわゆる「途上国」と呼ばれる国々で展開される（されようとしている）社会開発や開発援助の分野に人類学的視点からアプローチし、開発の意味やより「効果的な」開発とは何かなど、「文化」の視点を加味した開発、援助のあるべき方向性について。

② 広く現代世界（日本を含む）で生起されるさまざまな社会現象（①以外の現象）に対し、文化人類学的視点からアプローチする。

2. 開講曜時限

(1)春AB＋秋AB：火曜 6 限～19:30 頃まで（終了時間は決まっていません）→月曜日の可能性あり（１月末までに決定します）。

(2)春C 集中（7 月前半）＋秋C 集中（12 月後半）

3. 履修要件・入ゼミの方法

2017年1月16日（火）午前0:00から参加申し込みの受け付けをおこないます。受付は当日のみです。2018年度の新3年生を「5～6名」受け入れる予定です。ただし、長期の留学・休学を予定している人については考慮します。

A4紙１～２枚程度に次の(1)～(3)の内容を書き、上記の指定日にsekine.enikes[at]gmail.comへ送ってください（[at]を@マークに変えてください）。その内容に基づいて選考しますが、同レベルの場合はGPAを参考にします。

(1) 研究テーマとその概要（しっかりと内容を吟味すること）

(2) ３年次に長期の休学・留学を予定しているか否かの別

(3) ２年次までに履修した人類学系、社会開発系の科目名

4．選考スケジュール

・ゼミ見学可能日（すべて火曜日6限～19:30頃まで）※事前にゼミ教員宛に要メール連絡。

11月：7・14・21、12月：5・12・19

・ゼミ申し込み日：1/16（火）→担当教員による選考、1/17（水）結果通知（メールにて）。

なお、1/17（火）に担当教員から出される「参加許可」のメールを受信し、期日までにそれに反応しない場合は、キャンセル扱いとします。

2017年4月時点で国際総合学類の3年生であれば誰でも応募できますが、研究テーマや募集人数の関係で受け入れを断る場合もあります。また、男女比を考慮する場合もあります。現在のゼミ生数の関係で、新4年生の新規受け入れは行いません。

問い合わせ：関根久雄（sekine.hisao.gm@u.tsukuba.ac.jp）、あるいは現役ゼミ生（3・4年生）

前川ゼミ（文化・開発論ゼミ）

筑波大学人文社会系教授　前川 啓治

1. ゼミナールの概要

・ゼミの紹介

ゼミ生の自主的な意欲を尊重し、前提とするゼミです。

・扱うトピック

①人類学のテーマ全般、②文化のグローカリゼーション、③地域づくり、
④狭義の人類学に該当しなくともフィールドワークに基づき、卒論を書く場合

・学習目標

独論は必須で、また自ら卒論のテーマと題材を見つけ出し、評価A以上の論文を書くこと。

・修得できるスキル等

学問の原理を理解する。フィールドワークとは何かを理解する。「世界」を見る目を身に着ける。

・使用するテキスト　適宜指示

参考文献　『21世紀の文化人類学』

・単位取得条件や成績評価基準

出席と発表

2.　開講曜時限

春学期水曜日 5 時限(第 3 週を除く)、秋学期水曜日 5 ・6時限(第 3 週を除く)教室：3K325

3. 履修要件・入ゼミの方法

「文化・開発論」、自由科目「筑波山から学ぶ」および／ないし「野外調査法」を履修のこと。未履修のゼミ生は、３年次以降に履修のこと。

A4 1 枚に、現在興味を持っている学問的トピックをまとめて提出する。
休学、留学予定者は留学先と期間を明示すること。

・学生がコンタクトする方法

eメールで連絡

・選抜スケジュール

11 月以降：　教員へのメール問い合わせ
11 月中旬以降：　オープンゼミ(前もってメールで問い合わせ)
12月末：　教員へのゼミ参加希望表明締切日
1月上旬：　教員による通知

情報・環境分野

奥島ゼミ（環境経済学、環境政策）

筑波大学システム情報系社会工学域　准教授　奥島 真一郎（okushima@sk.tsukuba.ac.jp）

1. ゼミナールの概要

本ゼミは、経済、環境、エネルギー、政策分析に関わるテーマを主題とします。担当教員は環境経済学が専門ですが、開発経済学や公共経済学など経済学の他分野、環境社会学や環境倫理学など環境と経済に関する他ディシプリンの研究、経済思想や日本経済論などのテーマでもＯＫです。

ゼミでは、「教養」と「専門性」双方の涵養を目指します。前者については、①新聞を用いた時事問題に関するディスカッション、②社会科学の古典の講義・輪読、また後者については、③環境問題に関連する書籍・論文を用いたディスカッショ　ン、④プロジェクト研究、などを予定しています。本ゼミにおいては、なるべく早い時期から、自ら関心があるテーマを決定し、具体的な調査・研究を進めていくことを目標とします。現代社会において必須である、プレゼンテーション技術（説得 技術）の育成も重視します。

大学生活は 1 分 1 秒が貴重であり、人生の中で文字通り“invaluable”な時期だと考えますが、大学時代にゼミ等で「自ら学ぶ習慣」、「自ら考える習慣」を身につけることは、今後の長い人生において極めて重要であると考えます。このような問題意識から、本ゼミでは、教養と専門性を兼備した、真に主体性のある人間を目標に、共に切磋琢磨したいと考えています。そのため、自ら問題意識をもった、受身でない、意欲的な人材を歓迎します。

2. 開講曜時限

春 AB+秋 AB+集中

火曜日または木曜日の５時限、６時限、時間外（その年のゼミ生の都合により調整可）

3. 履修要件・入ゼミの方法・選抜スケジュール

ゼミ参加者に期待する要件としては、上述の観点から、第一に①主体性、意欲、そして②関連分野の基礎知識があげられます。さらに、思想的なことに関心があること、物事を多面的に考えることができる人を一層歓迎します。もちろん、担当教員の授業をすでに受けていることが望ましいのはいうまでもありません。それは授業が、担当教員の学問的関心や雰囲気を知るための最も良い機会だからです。

人数は、各学年 3 名程度を予定しています。理由は、ゼミにおける学生の主体性を保証するためにはこのぐらいの人数が限界だと考えるからです。

選抜方法は、原則として、ゼミ見学、面談の上、課題レポート等による選抜、とします。具体的な手順としては、2 年次 10 月のゼミ説明会の後、①e-mail 等によるゼミ見学会参加 ・ 担当教員との面談の予約（11 月中旬まで）、②ゼミ見学会参加（11 月中旬）後、課題提出（12 月初旬）、担当教員 ・ ゼミ生との最終面談（12 月中旬）、③選抜の結果ＯＫ、④正式な参加申請（12 月末まで）、⑤担当教員による内定（12 月末）、となります。詳しくは、2 年次 10 月の国際総合学類ゼミ説明会で説明しますので、本ゼミ希望者は必ず参加してください。

4. ゼミＯＢＯＧからの声

本ゼミで過ごした数年間は、卒業後に進学した University of California, Davis 大学院や現在の職場であるタタ財団（Tata Trusts）で活躍するための土台を築いてくれました。時事問題についてのディスカッションと古典の輪読を通じて幅広い教養が身につくとともに、長期的な視点から現代の環境問題、社会問題を分析し、議論する力や論文にまとめる力を磨くことができました。多種多様なバックグラウンド、興味関心をもつゼミ生との日々の活動は、包括的な視点から研究テーマを掘り下げ、将来の進路についても考える機会を与えてくれました。主体性が重んじられる奥島ゼミでは、ディスカッションの準備や合宿の計画、独立・卒業論文の執筆まで、学生が自ら率先して取り組んでいくことになります。ここでの経験は、高い自己管理能力が求められるアメリカの大学院や職場で生き残る上で、大きな支えになりました。そして、何事にも妥協を許さないゼミ仲間は、在学中のみならず、今でも互いに切磋琢磨できる大きな財産です（ゼミＯＢ、26 期）。

亀山ゼミ（適応情報処理研究室）

システム情報系　教授　亀山啓輔

1. ゼミナールの概要

当研究室では環境や状況に適応してアルゴリズムやモデルを変更していく情報処理様式について研究を行っています．人間をはじめとする生物には，限られた情報処理資源を利用して，試行と失敗を繰り返し，時には世代を超えて問題を解決していく能力があります．このようなプロセスを「適応情報処理」様式ととらえ，基盤となる学習，最適化，信号処理の理論をふまえて，適応的なパターン認識，信号・画像処理，検索アルゴリズムを提案，実世界の問題を解決していくための研究を行っています．

当研究室では，鈴木大三先生と共同で (a) パターン認識や画像工学に関連する英文論文購読と研究進捗報告を基本とする「研究ゼミ」，(b) パターン認識，機械学習に関連する基礎知識の獲得やプログラミングスキル養成のための「基礎ゼミ」，および (c) 一人一人異なる研究テーマに関する教員との個別ディスカッション(通年隔週)の3つを中心に研究を進めます．

2. 開講曜時限

(a) 研究ゼミ	月曜日　18:15 – 20:00, @ 3F816
(b) 基礎ゼミ	火曜日　18:15 – 20:00, @ 3F816
(c) 個別ディスカッション	日時相談の上，隔週実施　@ 3F908

3. 履修要件・入ゼミの方法・選抜スケジュール

知的メディア処理，特に画像の認識や処理に興味があり，3年次進級時点で学類開講の数理科学I, II，情報科学I，II，統計科学，情報メディア概論，データ解析等の科目の多くを履修済みであること．C, Java, pythonのいずれかを用いたプログラミングスキルをもっていること．英語で書かれた情報分野の論文が読めること．定員：各学年2名

当ゼミでの専門ゼミナール履修を希望する人は，下記連絡先にメールで連絡をください．面談を行い希望する研究テーマについて聞き取りを行います．10月，11月の研究ゼミ，基礎ゼミにはゲスト参加を歓迎します．10月中に，国際総合学類生，情報科学類生向けの研究室説明会を実施します．

選抜スケジュール

- 10 月-11 月：　ゼミ見学，研究ゼミ＆基礎ゼミゲスト参加期間（日時は研究室webページ参照）
- 12 月前半：　教員による面談期間
- 12 月末：　次年度ゼミ生を決定

4. その他

Web : http://adapt.cs.tsukuba.ac.jp,
E-mail : keisuke.kameyama@cs.tsukuba.ac.jp

Adaptive Information Processing Group

白川ゼミ（水環境）

筑波大学システム情報系准教授　白川　直樹

1. ゼミナールの概要

河川・水環境と人間の関係を『まちづくり』『生態系』『防災』『経済』の４つの面から考えていきます．ゼミ生は４つの班から１つを選択して学習と活動を進めます．

ゼミは「プロジェクト」と「研究」の２部構成です．プロジェクトは，共通のテーマを設定して全員が協力しながら一つの課題に取り組みます．「〇〇町のかわまちづくり計画を提案する」「世界の河川生態系マップを描く」「防災ゲームを作る」「〇〇市の水環境を経済評価する」などです．研究は，一人ずつ異なるテーマに沿って調査・分析を行い，発表と議論を重ねて独立論文（必須）と卒業論文を執筆します．

ゼミは毎週２コマを基本とします．必要に応じてフィールドワーク，住民参加型シンポジウムの運営や補助，小中学校での防災教育，市民ワークショップでの活動発表などを行います．

2.　開講曜時限

春ＡＢＣ＋秋ＡＢＣ

曜時限はゼミ生の時間割を勘案して決めます．

（春学期候補：月３～６限，火５６限，木３～６限，金１～６限）

3. 履修要件・入ゼミの方法・選抜スケジュール

履修要件はありません．（数学不要）

ゼミ見学は行いませんので，必ず担当教員と面談を行った後，「ゼミ参加を希望する理由」をメールに書いて送ってください．様式，分量は問いません．

2018年12月13日（木）：面談期限（遅くともこの日までに時間を決めて面談すること）

2018年12月19日（水）：ゼミ参加希望受付締切

※ただし，希望人数が多い場合は早めに締め切ることがあります

2018年12月末までにゼミ参加可否を教員から通知します．

4. その他（例：連絡先、個人HP・ゼミHPのリンク等）

面談，質問などはshirakawa.naoki.gf@u.tsukuba.ac.jpまで

研究室は3F105（第３エリアＦ棟１階）にあります．

鈴木大三ゼミ（メディア信号処理）

筑波大学システム情報系助教　鈴木　大三

1. ゼミナールの概要

マルチメディア機器の発展やブロードバンド網の普及によって、医療分野や芸術分野をはじめディジタルカメラやインターネット配信などのエンターテインメント分野に至るまで、様々な場面で多様な画像・映像データが使用されるようになった。しかし、新たな画像・映像データが増えるにしたがい、限られたストレージ容量や通信帯域が圧迫され続けている。その結果、データ使用制限や通信速度低下などが発生し、サービス提供者においてもユーザにおいても不便さを感じざるを得ない状況が多々あり、また今後もその問題は加速すると予想される。当ゼミでは、画像・映像データを多次元信号と捉え、信号処理の観点から主にそれらの問題を解決する手法について　研究する。

主な活動としては、英文論文購読と研究進捗報告を基本とする「研究ゼミ」、基礎知識の獲得やプログラミングスキル養成のための「基礎ゼミ」、個々人の研究テーマに関する教員との「個別ディスカッション」を行う。また、当ゼミは亀山啓輔先生と共同で研究を進める。

2. 開講曜時限

・研究ゼミ　　：月曜日18:15～20:00　@ 3F816
・基礎ゼミ　　：火曜日18:15～20:00　@ 3F816
・個別ディスカッション：日時相談の上、適宜　@ SB1107

3. 履修要件・入ゼミの方法・選抜スケジュール

・履修要件　：マルチメディア関連の信号処理（特に画像・映像処理）に興味がある方
・必要知識　：信号処理、線形代数、微積分、プログラミング（MATLAB やC 言語）等
・選抜スケジュール（説明会→面談→決定）

- 10 月– 11 月：ゼミ見学、研究ゼミ＆基礎ゼミゲスト参加期間（詳細は研究室HP参照）
- 12 月前半　：教員による面談期間
- 12 月末　　：次年度ゼミ生を決定

4. その他　（例：連絡先、個人 HP・ゼミ HP のリンク等）

・メール　：taizo@cs.tsukuba.ac.jp
・個人HP　：http://www.cs.tsukuba.ac.jp/~taizo/
・研究室HP：http://www.cs.tsukuba.ac.jp/~taizo/msprg/

高橋ゼミ（ヒューマンコンピュータインタラクション）

筑波大学システム情報系准教授　高橋伸

1. ゼミナールの概要

本ゼミでは、今後さらに進化するコンピューティング環境に向けて、 「日常、人とコンピュータ」という観点から、人とコンピュータの新しい関わり方について研究を行います。 学生の興味に対応して本ゼミでは情報技術やコンピュータ関連の幅広い対象を扱います。

セミナーにおいては、ヒューマンコンピュータインタラクションやソーシャルコンピューティングに関わる基礎的文献調査、 フィールドワーク、評価実験などを中心に研究を行います。 まずは関連する文献や国際会議論文を多数読むところから始め、自分の興味のある対象を見つけてもらいます。 ゼミは基本的に週２回で、曜日時間はメンバー決定後の要相談となります。現在は、 情報系の学生と合同でゼミを行っています。春・夏合宿も行っていますので、参加して下さい。

2. 開講曜時限

春 ABC 秋 ABC の期間に週２回１～２コマ相当時間のゼミを行う。開講曜時限は参加者のスケジュールを調整して決定する。

3. 履修要件・入ゼミの方法/選抜スケジュール

履修要件は特にないが、ゼミは毎回出席が義務であり、
無断欠席が続く場合は単位取得を認めない。
ゼミ参加希望者には面接を行うので、メールで連絡すること。

選抜スケジュール：
10 月～11 月末：ゼミ見学・面談等受付
12 月：ゼミ参加希望受付
12 月末：選抜結果連絡

4. その他 （例：連絡先、個人 HP・ゼミ HP のリンク等）

メール：shin@cs.tsukuba.ac.jp

HP: http://www.iplab.cs.tsukuba.ac.jp/~shin

SeNSE Seminar (Simona Vasilache): SNS & Software Engineering

Simona Vasilache, Assistant Professor, Grad. School of Systems and Inf. Engineering

1. Introduction

Everybody knows and uses SNS. What are they? What areas are they used in? What are their benefits/drawbacks? What are researchers saying about them? How can we use them, so they become (even more) useful? We can answer all these questions together!
What is software engineering?! Can I become an engineer if I study about it? Am I going to write software? Can I become a programmer?! Is there any difference between a computer scientist, a software engineer and a programmer?
If we work together, we can come up with more questions (and answers).
(Definition of SE: engineering discipline concerned with all aspects through which software is developed)

We will read various articles & materials and we will discuss them during seminars, which will be a forum for exchanging ideas. Everybody can (and must) express what they think! We will hold round-table style discussions and, as discussions go, we may start with a certain topic and reach a very different one. We may discover things we didn't even know we knew and we can come up with new & exciting ideas.

We will try to understand the increasing role of SNS in the 21st century, mainly in the fields of science and education. Furthermore, we will find out what software engineers do, the challenges they face and how they differ from programmers. We will study interesting examples of success and failure stories, in both the social networking services and software engineering fields.
Moreover, we will all have the opportunity to gain experience in understanding and writing academic papers in English, as well as practice our presentation skills.

2. Semester, period and venue
Bi-weekly; SB building, 10th floor (room SB1014 or SB1001)
Spring: Friday, 15.15~ ; Fall: Monday, 15.15~ (Wednesday, 12.15~)

3. Prerequisites, how to apply and selection schedule
#No particular prerequisites for this seminar

Contact the instructor by email (before Dec. 15) → Individual meeting with instructor (Dec., Jan.) → Final notification of selection results (Feb. 1)

4. Additional information
E-mail contact: simona@cs.tsukuba.ac.jp

松原康介ゼミ（都市計画・都市史）

筑波大学システム情報系准教授　松原　康介

1. ゼミナールの概要

都市計画、とくに海外の都市計画や都市の歴史について、共同作業を通して学ぶゼミです。世界中に存在する歴史ある都市空間を、いかにして現代の生活の中で継承し、活かしていくことができるかについて考えます。

指導教員は中東・北アフリカ地域を専門とし、モロッコ、シリア、フランスに留学経験がありますが、地域的な関心は自由で、現在、多くの国に留学した、あるいは留学中のゼミ生がおり、それぞれの都市での生活体験に根差した研究を展開しています。教員やゼミ生が留学先を訪問し、現地ゼミを開くこともあるかもしれません。

毎年夏にはゼミ合宿、また、３年生主体の「大学生観光まちづくりコンテスト」などへの参加（2015年はパフォーマンス賞を獲得！）を通じて、現地調査とチームワークの精神を学びます。

参考までに、2016 年度の卒業生の研究テーマは、「バルセロナ旧市街の商業空間」「ホーチミンの都市計画技術協力」「モロッコ・フェスの歴史建造物リヤドの再生」「ベルリンの地区イメージ形成」などです。

2.　開講曜時限

毎週月曜１、２限（09：00-12：00）又は金曜の７、８限（18：30-21：30）に開講（自由選択制）

3. 履修要件・入ゼミの方法・選抜スケジュール

中東・北アフリカを初めとするフランス語圏の都市に関心がある方、あるいは将来、都市計画を自分自身の職能として、国際的に活動する分野の仕事に就きたい方を歓迎しています。

留学希望者にはゼミとしても全面的に支援しています。指導教員が担当しているのはモロッコのアル＝アハワイン大学（総合）、パリのラ・ヴィレット建築大学（建築・都市史）、モンペリエ第三大学（地理・歴史）です。また、大学院進学希望者は優先的に入ゼミ頂きます。１年間の交換留学を経て４年で卒業し、大学院修士課程の２年間の社会工学の専門教育と就職活動を通して、都市の国際協力に関する広い視野と、都市研究を基本とする専門性を兼ね備えた人材として社会に出て頂きたいと思っています。

文理融合型の研究を進めますが、国際総合学類の学生は、海外への視点や行動力、あるいは語学などの強みを活かしています。数学は必須ではありませんが、実際に都市を歩いて、建築や空間を見る目をしっかりと養います。技法として、GIS（地理情報システム）、フォトショップ、イラストレーター等を習得します。また、入ゼミ後、社工共通の都市計画関係の実習科目や世界遺産専攻等の関連科目を履修頂きます。

ゼミ見学は随時受け付けています。ご希望の際は、教員あてにメールでご相談ください。

4. その他（例：連絡先、個人HP・ゼミHPのリンク等）

教員連絡先：matsub@sk.tsukuba.ac.jp

ゼミHP ：http://infoshako.sk.tsukuba.ac.jp/~matsub/

研究室Twitterアカウント：https://twitter.com/matsub_pro

研究室Facebookページ：https://www.facebook.com/groups/371902826224617/

渡邉真一郎ゼミ（組織行動論）

筑波大学システム情報系教授　渡邉　真一郎

1. ゼミナールの概要

心理学の理論と原理を応用し、組織における人の行動の「何故」を研究するゼミです。ほんの一部に過ぎませんが、例えば次のようなトピックがこの分野において多大の関心を長年集めてきています：

- ワークモティベーション
- 心理学的個人差要因と環境要因が組織行動に及ぼす影響
- 仕事生活と仕事外生活が職場と家庭における諸行動に及ぼす影響
- 個人- 環境フィットと組織行動
- リーダーシップ

学生自身の興味と関心を尊重しますので、自分が追及したい卒研テーマを設定してください。人の行動の「何故」を扱うテーマであれば、どんなものでも構いません。皆さんの先輩達は、例えば、以下のようなテーマを開拓し、研究してきました：

- 個人–専攻フィットとアカデミック・パフォーマンス
- 基本特性の顕在化とセールス･パフォーマンス
- 職務満足のＳ－Ｏ－Ｒモデル
- チームワークの決定要因
- 性格特性と職場環境が内発動機に与える影響
- 感情不協和の測定尺度の開発
- プロアクティブ行動の決定要因
- 感情労働とワークエンゲージメント

2.　開講曜時限

週1回を基本とし、研究室（3F1236）または学生室（3F1242/1243）において行います。学生は進捗状況を報告するとともに、卒研と関連するペーパー（週に1篇）についてプレゼンを行う。

3. 履修要件・入ゼミの方法・選抜スケジュール

人間行動に関する強い興味と統計学的の基礎的知識とスキルを要件とする。さらに、産業・組織心理学 (BC12391) を受講し、Ａを取得していることが学生-ゼミ間のフィットの点から望ましい。
当ゼミを選択したい学生は、本年12月中旬～来年の1月末の間にe-mail（watanabe@sk.tsukuba.ac.jp）で面談のためのアポイントメントを取ってください。